

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200234		
法人名	有限会社のざき		
事業所名	グループホームひと息		
所在地	石川県七尾市赤浦町カ-34		
自己評価作成日	令和4年12月12日	評価結果市町村受理日	令和5年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和4年12月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフの自己満足的なお世話ではなく、過剰な介護に気をつけ、利用者の自立支援に心がけている。  
 また、リハビリにつながるような事は担当医とも相談して、多少無理な(嫌な)事もしてもらいます。 尊敬  
 と敬意を持って接していきたい。また、日々の介護の経験をスタッフ自身の学習として、スタッフ個々のスキルアップに繋げる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染拡大以降地域との付き合いは難しくなっている。それでも町会のゴミ当番に参加したり、春と秋の祭礼時にはお神輿が来てくれて利用者を楽しんでみている。敷地内であるが今年はベンチとテラスを整備してそこでくつろいだり、昼食をとったりしている。今年は畑も拡張したので、利用者も畑づくりをしてピーマン、茄子、トマト、ネギ等を収穫している。  
 食事の献立や調理は、その日の当番職員が行っている。利用者に「何食べたい?」と尋ねたりもしている。利用者の何人かは、下ごしらえなどを手伝ってくれる。食事はコロナになっても、以前と同じく1つのテーブルに3人が座り食事を摂っている。食事中は、職員が「おいしい?」など、声かけなどのコミュニケーションを取りながら食事をしている。また、誕生会があり、その時にはその時の主役の好きなものを出すようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日に出勤時に確認出来るように、事務所に掲げてあります。	「真心を第一番と考える」「あたたかい声かけ」を実践するために管理者は日常の会話の中や申し送り時に職員に話しかけている。特に新しい利用者が入った時や、新人職員が入った時には意識して理念について説明して共有できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りなどの行事等に参加したり、ゴミステーションの管理当番などをしながら地域との交流を図っている	新型コロナウイルス感染拡大以降地域との付き合いは難しくなっている。それでも町会のゴミ当番に参加したり、春と秋の祭礼時にはお神輿が来てくれて利用者はそれを楽しんでみている。敷地内であるが今年はベンチとテラスを整備してそこでくつろいだり、昼食をとったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かされていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため会合をひかえている	町会長、公民館長、民生委員、七尾市、家族等が委員会のメンバーとなっているが、コロナのため対面での委員会は開催していない。書面による開催も春と夏に行っただけである。	書面による会議等を二か月に一度開催することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、利用者名簿の報告を行っている。	コロナ以降対面での連携の機会は少なくなっていて、市との連絡はほとんどがメールや電話で毎月空き情報の報告やコロナワクチンの連絡などを行っている。今年度は転倒による外傷のため七尾市へ事故報告を行っている。七尾市の事業者連絡会がズームにより開催されているので参加して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2月に一度委員会を開催し、チェックリストを基に意見交換などをおこない身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備して、内部での研修を年に2回行っている。1月に県主催の研修が行われるがそれに参加予定をしている。適正化のための委員会を2か月ごとに厚生省の指針を参考にして実施して身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。建物の施錠は夜勤帯に防犯上実施している。センサーを利用している人はいない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やマニュアルを作成しスタッフが熟知し、虐待防止身に取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフにより知識の差はあるが、必要性があれば関係者と連絡をとり活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明のうえ、理解・納得を得ている。不明な点があればその都度対応をしている。入居時には直接本人の意思確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者様が意見を出しやすいような雰囲気作りにつとめている。また、運営推進会議、電話連絡、面会時に意見・要望を聴けるようにしている。	家族は割合頻繁に面会や物品を届けに来てくれているのでその時に家族とよく話して、意見や要望を聴取している。毎月請求書を郵送する時に連絡することがあれば伝えたり、急ぎの時にはその都度電話で連絡を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者はスタッフ共に現場で働き、常にコミュニケーションが取れる状態になっている。	代表者は管理者を兼務しておりシフト勤務(夜勤も)にも入っている。そのため職員とは日常的によく話し合い、職員の意見や提案を聴取している。コロナ下で懇親会を開くこともできないため、その代わりに職員へお中元とお歳暮を贈ることになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ではあるが出来るだけ昇給するように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修の参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会への参加。相互研修等。本年度はコロナ禍の為、研修等の参加はひかえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などもお話ししながら、受け止める努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などを相手の立場に立ち、話を聞き受け止め関係を築くことに務め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として出来る限りの対応に努め、必要に応じてサービス利用の調整を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの日々の生活ぶりを確認し、利用者の意思を尊重しながら学びの心で、支え合いながら感謝の気持ちで接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には入居時に共に支えて行くことを説明とお願いをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用開始前には、管理者が自宅を訪問する等して事前に面接を行ったり、利用者・家族に見学に来てもらい継続性に配慮している。入居後も友人が遊びにきたり、買い物に出かけたりしている	通院は原則家族送迎で行っているのので、通院時にドライブや買い物に出かける利用者もいる。また、理美容のため家族と出かけている利用者もいる。コロナ以降、以前の様にはドライブ等外出の機会は少なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動に参加しやすい環境を作り、利用者同士が関わり合いをもち、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も出来る限りの、次のサービス利用の助言や相談に務めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所後、本人の様子を観察し、対話・入所前の生活習慣・生活履歴から職員で話しあいを持ち、本人の意向・希望に添える様に努めている。	スタッフ間の意思疎通を深め情報共有を図りながらケアに努めている。利用者とは基本的にゆっくりかかわり話をしながら、職員側の思い込みを優先させないようにして対応している。日々の利用者の表情やしぐさにも注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご家族の方からも生活歴等の情報聴取をさせて頂き、ご本人からもこれまでの生活を傾聴するなどし、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや、日々の変化を見逃さぬよう観察に努め、現状把握、また記録共用にに務めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	以前のような定期的なミーティングが開催出来ていないが、介護計画作成者はスタッフにより意見情報を収集し介護計画に反映している。変更点があればその都度報告を行っている。	ケアマネジャーがアセスメントを行い原案を作成して、申し送り時にプランを周知している。プランは事務所にファイルされて、スタッフがすぐに確認できるようにしてある。モニタリングは3か月ごとに行いプランをその都度更新している。記録は個人記録、管理日誌、バイタル等の記録がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別の経過記録、スタッフとのコミュニケーションを通じて、日々細かな変化への対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じ、その時々に必要な支援を、出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の意向や必要に応じて関係機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けていただいている	協力医療機関が主治医で月に一度往診してくれ、オンコール体制をとっている。そのため他のかかりつけ医の人でも入居後には2から3か月後にはかかりつけ医を変更している。眼科、耳鼻科、歯科等は家族対応で受診となり、受診の結果は家族から申し送りしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師との24h連絡がとれるような体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には素早く本人に関する情報提供を行い、入院中にも面会に行き関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院につながるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認し、次の対応方針を話し合っている	看取りの事例はないし、積極的に行っていない(医療連携加算の算定無)。重度化については主治医や家族と相談しながら介護保険施設や入院の手続きをとっている。設備的に入浴(一般ユニットバス)が出来なくなってくると次の施設の検討を始め、移行についての支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは緊急救命士を受講し、急変や事故発生時に備えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	介護事故マニュアルをスタッフ全員が熟知	「介護事故対応マニュアル」や「感染マニュアル・衛生マニュアル」などの各種感染防止マニュアルなどが作成されている。マニュアルは、いつでも職員が見ることができる場所に置いている。今年度の行政への事故報告が1件あった。また、ヒヤリハット報告は1年に10件程度報告される。このように、事故報告書やヒヤリハット報告書が提出された際に、マニュアルの周知に努めている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関である円山病院(内科)の月1回の定期往診の他、電話による夜間・休日の対応も行っている。同病院が運営する千寿園(介護老人福祉施設)とも、重度化した際の受け入れ態勢が整っている。	協力医療機関は、市内の円山病院である。利用者の多くの主治医であり、月1回往診してくれ、緊急時等24時間連絡が可能である。また、往診時にインフルエンザの予防接種を実施してくれたり、コロナワクチン接種の対応をしてくれたり、密に連携している。入居前のかかりつけ医に継続受診している方もいて、家族が定期受診に付き添っている。そして、バックアップ施設は、円山病院と同じグループの特養の千寿園であり、情報交換等で密に連携している。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	施設長、管理者がホームと近隣な為、夜間緊急時には連絡を取れるようになっている	1ユニットなので、一人夜勤である。職員一人体制になるのは、17:30～翌朝8:00までである。救急車を呼ぶなどの緊急時には、ホームの一番近くに住んでいる管理者に連絡する。すると管理者が応援に来ている。その他の利用者の状態の変化については、ケアマネに連絡し、ケアマネより指示が出ている。管理者やケアマネに連絡がつかない場合は、協力医療機関に連絡し、指示をもらうことになっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。内1回は消防員の立ち会い。	毎年4月と9月の年2回、防災訓練を実施している。今年も、4月の防災訓練に消防署員の立ち会いがあり、総合訓練を実施している。9月の訓練はホーム単独で行い、通報訓練と避難訓練を実施している。訓練前には職員に訓練内容を周知し、年1回は訓練に参加させるよう配慮している。そして、訓練の後には「訓練報告書」を作成している。消防署員の講評などの指摘事項や訓練の考察などを記録し、職員に回覧し、防災意識の向上に取り組んでいる。消防設備点検は、年2回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難マップの掲示	「グループホーム一息 防災マニュアル」が作成されている。マニュアルには「火災の留意事項」、「台風、大雨洪水注意報等の手順」、「地震の避難手順」などが記載されている。マニュアルの周知は、防災訓練等の際に周知するよう努めている。但し、少しの在庫の食料はあるが、災害用の備蓄食品や物品はない。	備蓄への取組みおよび備蓄リストを作成する取組みが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を個々に行っている。居室の出入り口にうすいカーテンを吊り、居室の中が外から丸見えにならないように配慮している。また、トイレ誘導の際は、さりげない言葉使いを心がけている。	各種マニュアルが綴られたファイルの中に「介護教室」というマニュアルがあり、「知的活動がたとえ加齢によって衰えたとしても、感受性はとても豊かである」、「利用者を人生の先輩として尊敬する心と態度が大切である」などと示されおり、そのように取り組むよう努めている。日々の取組としては、居室の中が見えないように配慮したり、トイレの声かけの際は、さりげない言葉使いを心がけている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ等を行い、その日の気分や、体調、嗜好を聞き、納得した生活を送ってもらえるよう努めている		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、本人ペースで行えるように対応している		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等は自分で選んでもらい、個性を大切に、おしゃれを楽しんでいただいている。馴染みの美容院へ行かされている方もいる		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに応じた食事も提供し、出来る限りに一緒に食事の準備や片付けを行い、入居者様の力を引き出せるようにしたり、美しく・楽しく食事ができるよう支援している。	食事の献立や調理は、その日の当番職員が行っている。利用者に「何食べたい？」と尋ねたりもしている。利用者の何人かは、下ごしらえなどを手伝ってくれる。食事はコロナになってからも、以前と同じく1つのテーブルに3人が座り食事を摂っている。食事中は、職員が「おいしい？」など、声かけなどのコミュニケーションを取りながら食事をしている。また、誕生会があり、その時にはその時の主役の好きなものを出すようにしている。そして、10時と15時はドリンクとおやつを楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の残量や、水分量のチェックを行っている。また体調や習慣によっても調理方法を工夫している。毎月多重測定を行い、主治医に報告を行っている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の口腔ケアの声えかけを行っている。困難な方には状況に合わせて職員が介助をしている		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように努めている。下着・リハビリパンツ・尿取りパット等と日中、夜間、外出時に応じて使い分けている	現在は、排泄介助の必要な3人の方に対して、排尿、排便のチェックを行っている。タイミング良い声かけを行い、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。あとの6人は、夜間にたまに失敗がある程度で、ほぼ排泄は自立している。排泄介助の必要な方で、パッドの仕方の問題なのか、尿漏れの酷い方が1人いる。現在、その方に合った尿漏れ対策を模索している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心がけて、食事面においても繊維質なもととりいれたりしている。主治医にも相談し指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日に午後から、希望を聞き入浴をしていたら入浴している。一人週2回は入浴して頂けるよう声かけを行っている。一人で入りたい方には一人で入っていただいております、必要に応じて声かけや介助を行っている。季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などもしている	一日おきに入浴支援が行われている。週2回は入浴してもらうように支援している。利用者の中に、「もう1か月も入浴していない。明日、シャワーでよいからさせて欲しい」と言ってくる方がいる。この方は一人でも入浴が可能な方で、1日おきに入浴している。その日に入浴する人は決まっているが、本人が拒否した場合は、時間をおいたり、声かける人を変えたり、日を変えて対応している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にしながら個々にあった睡眠が取れるように配慮している		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カードにて変更薬や作用などを確認できるようにしている。内服には職員が支援と確認をおこなっている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で役割を持ってもらい散歩やイベント参加、買い物など気晴らしが出来るよう支援している		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の庭は広く舗装されいつでも出られるようになっており、ベンチで休めるようになっていいる。外出は家族の協力を得られるようにしている。	気候の良い日は散歩へ出かけている。今年には庭に、手作りベンチを置き、ひなたぼっこを行った。畑を広げ、草取りを手伝ってくれた方もいる。春と秋の町内の祭りの際は、神輿を庭で見た。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人に合わせて、自分でお金を所持して頂いたり、職員と共に買い物に出かけてお金を払う機会を作るようにしている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話で自由に話しが出来るようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙も自由にやり取りが出来るように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や小物などを飾ったりしている。リビングや居室の窓からは庭を眺められ、季節を感じることができる。食堂のテーブルにはポットにお茶を入れて、自由に飲めるようにしている。リビング以外の場所に、ソファを置き、テレビなどの音のない状況でゆっくりできる場所を作っている。	リビングには、庭に咲く花を飾ったり、季節の飾りつけをしている。正月、3月のひな祭り、5月の鯉のぼり、12月のクリスマスなど季節の飾りつけを行い、季節を感じている。また、リビングのテーブルには、ポットにお茶を入れて置いてあり、自由に飲めるようになっている。また、リビング以外の場所にソファを置き、他者から離れ、ゆっくりできるよう配慮している。リビングは、皆が集まる場所なので、毎日掃除、消毒、換気を行い、清潔を保持している。また今年は畑を掘り、ピーマン、ナス、トマト、ネギ、ひまわりなどを植え、利用者の数人も草刈りを手伝ってくれた。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもソファを置き、入居者同士でお話しをされたり、音楽をきいたりと思い思いの場所で過ごすことができる		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品や衣類、写真、アルバムなどを持ち込んでいただき自分らしく過ごせるようにしている。	入居時には使い慣れたものを持ち込んでもらっている。棚とか写真、手紙を貼っている方もいる。また、誕生日には職員が作った誕生日カードを部屋に貼っている。入居している年数分の誕生日カードが貼られている。誕生日には家族から花束が届く方もいる。また、利用者の一人が、壁に花を置いて、リンを鳴らし、毎日お経を読む人もいる。居室は本人の好むように使ってもらっている。居室の掃除は、毎日職員と一緒にやる。シーツ交換も週1回行う。清潔を保ち居心地よく過ごせるよう支援している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事や掃除など個々の力量に合わせて出来ることはしてもらい、過剰介護にならないよう時間が掛かっても見守り重視にしている		